

令和8年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 教育学部第二類（科学文化教育系） 〕

プログラムの名称（和文）	社会認識教育学プログラム
（英文）	Program in Social Studies Education
1. 取得できる学位 学士（教育学）	
<p>2. 概要</p> <p>社会認識教育学プログラムは、中学校社会科教員、高等学校地理歴史科教員、公民科教員（これらを総称して、中等社会系教員と呼ぶ。）を養成することを主な目的としています。</p> <p>中等教員養成をめざす中等教育科学プログラムの1つに位置づけられる当プログラムは、中学校、高等学校の社会系教育を実施するうえで必要な、地理学、歴史学、政治学、経済学、法学、哲学、倫理学などの人文・社会科学の各分野、及びそれらの教育・学習に関する基本的な知識、能力、技能ならびに態度を体系的に修得し、生徒の発達段階と学習段階に応じた社会系授業を展開したり、生徒の興味関心を引き出したり、新たに発展的な学習内容と方法を組織したりできるような実践的な教育能力の育成を目標としています。</p> <p>このプログラムは、第一義的には中等社会系教員の養成をめざしていますが、社会系教育やそれに関連した大学院に進学し、研究者として、また企業や地方自治体などの諸団体における教育専門職としても活躍できるよう応用発展的な知識・能力や技能の育成にも十分に配慮しています。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>社会認識教育学プログラムでは、専門職たる中等社会系教員としての基礎的な知識・理解、技能・態度を修得し、グローバルな視野にたち、国内外の教育現場などにおいて中核的な活動を果たすための科学的創造力と実践力を備えた人材を養成します。そのため本プログラムでは、以下の知識・理解、技能・態度を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 「社会認識教育学」の基本的な認識枠組を修得し、教科教育の目的・内容・方法を研究できる知識・理解、技能・態度を身につけている。</p> <p>(2) 「社会認識内容学」に関連する人文・社会科学の諸分野の基本的な認識枠組を修得し、研究できる知識・理解、技能・態度を身につけている。</p> <p>(3) 上の2つを総合して、優れた社会系教科教育を教育、実践できる能力を身につけている。</p>	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>社会認識教育学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践します。</p> <p>学位の取得には、本プログラムで開講される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としています。その内訳は、教養教育科目32単位、専門基礎科目16単位、専門科目40単位、専門選択科目と自由選択科目32単位、卒業研究8単位です。</p> <p>1年次から、専門基礎科目と専門科目に関する授業科目がはじまります。教養教育は専門教育の基盤づくりを担い、人文・社会科学に関する基本的な知識・理解を得るとともに、外国語能力が向上することになります。</p> <p>専門教育科目のうち社会系に関連する科目は、社会科教育、地理教育、歴史教育、公民教育等を取扱う「社会認</p>	

社会認識教育学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 中等社会系教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている	社会系教育の理論と方法に関する知識を十分にもっており、その理解を批判的に総合化して表現できる	中等社会系教育の理論と方法に関する知識をもっており、その理解を総合化して表現できる	中等社会系教育の理論と方法に関する知識をもっており、その理解を表現できる
	(2) 中等社会系地理・歴史領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	地理・歴史領域の教育内容に関する知識を十分にもっており、それらの理解を批判的に総合化して表現できる	地理・歴史領域の教育内容に関する知識をもっており、それらの理解を総合化して表現できる	地理・歴史領域の教育内容に関する知識をもっており、それらの理解を表現できる
	(3) 中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	公民史領域の教育内容に関する知識を十分にもっており、それらの理解を批判的に総合化して表現できる	公民領域の教育内容に関する知識をもっており、それらの理解を総合化して表現できる	公民領域の教育内容に関する知識をもっており、それらの理解を表現できる
能力・技能	(1) 中等社会系教育のカリキュラムや授業を収集・読解し、分析・批評できる	問題意識をもって、カリキュラムや授業を収集・読解し、批判的に分析・批評できる	カリキュラムや授業を収集・読解し、批判的に分析・批評できる	カリキュラムや授業を収集・読解し、分析・批評できる
	(2) 社会系内容領域の資料・データを収集・読解し、分析・批評できる	問題意識をもって、資料・データを収集・読解し、批判的に分析・批評できる	資料・データを収集・読解し、批判的に分析・批評できる	資料・データを収集・読解し、分析・批評できる
	(3) 中等社会系教育のカリキュラムや教育内容を開発したり、学習指導・評価案を作成できる	問題意識をもって、新コンセプトのカリキュラムや教育内容を開発したり、学習指導・評価案を作成できる	新コンセプトのカリキュラムや教育内容を開発したり、学習指導・評価案を作成できる	カリキュラムや教育内容を開発したり、学習指導・評価案を作成できる
総合的な力	(1) 個人またはグループで調査・研究、教育実践、社会的活動等を企画・立案し、実行できる	諸活動を目的合理的に企画・立案し、実行し、外部から評価を受けることができる	諸活動を目的合理的に企画・立案し、実行できる	諸活動を企画・立案し、実行できる
	(2) 調査・研究や教育実践、社会的活動等の成果をまとめ、プレゼンテーションできる	諸活動の成果を聴衆に分かりやすくまとめ、説得的にプレゼンテーションできる	諸活動の成果を聴衆に分かりやすくまとめ、プレゼンテーションできる	諸活動の成果をまとめ、プレゼンテーションできる
	(3) 他者と協働・協力して中等教育の課題に取り組み、解決策を提案できる	他者と協働・協力して課題に取り組み、リーダーシップをとりながら能動的に解決策を提案できる	他者と協働・協力して課題に取り組み、能動的に解決策を提案できる	他者と協働・協力して課題に取り組み、解決策を提案できる
研究的実践	(1) 中等社会系教育に関する研究を計画し、推進し、教科教育の意義や目的・方法を説明できる	研究を計画し、推進し、質の高いレポートやオリジナルジャーナルの論文を執筆できる	研究を計画し、推進し、まとまったレポートや論文を執筆できる	研究を計画し、推進し、教科教育の意義や目的・方法を説明できる
	(2) 社会系内容領域に関する研究を計画し、推進し、人文・社会現象の因果や意味を説明できる	研究を計画し、推進し、質の高い実践報告やオリジナルジャーナルの論文を執筆できる	研究を計画し、推進し、実践報告や論文を執筆できる	研究を計画し、推進し、人文・社会現象の因果や意味を説明できる
	(3) 中等社会系教育に関する目標を構想し、実践を計画・実行し、その効果を評価できる	自立的主体的に目標を構想し、実践を計画・実行し、その効果を評価して、教育課題の解決に貢献できる	自立的主体的に目標を構想し、実践を計画・実行し、その効果を評価して、授業改善できる	目標を構想し、実践を計画・実行し、結果を評価できる

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

教養教育は、専門教育の基盤づくりを担い、教育学、心理学を含む人文科学、社会科学に関する基本的な知識・理解を修得するとともに、外国語能力を向上させ、現代の社会や教育現場の要請に応える総合的な能力や資質を養う。

社会認識教育学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	中等社会系教育の理論と方法に関する基本的知識が身に付いている	教養科目(○)	専門基礎(◎)	専門基礎(○)	専門基礎(○)				
	中等社会系地理・歴史領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)				
	中等社会系公民領域の教育内容に関する基本的な知識が身に付いている	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)				
能力・技能	中等社会系教育のカリキュラムや授業を収集・読解し、分析・批評できる		専門基礎(◎)	専門基礎(○) 専門科目(○)	専門基礎(○) 専門科目(○)				
	社会系内容領域の資料・データを収集・読解し、分析・批評できる	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)	教養科目(○) 専門基礎(○)				
総合的な力	中等社会系教育のカリキュラムや教育内容を開発したり、学習指導・評価案を作成できる			専門科目(○)	専門科目(○)	専門科目(○)	専門科目(○)		
	個人またはグループで調査・研究、教育実践、社会的活動等を企画・立案し、実行できる	教養科目(◎○)	教養科目(○)	教養科目(○) 専門科目(○)	教養科目(○) 専門科目(○)				
	調査・研究や教育実践、社会的活動等の成果をまとめ、プレゼンテーションできる	教養科目(◎)	教養科目(○)	教養科目(○) 専門科目(○)	教養科目(○) 専門科目(○)	専門科目(○)	専門科目(○)		
研究的実践	他者と協働・協力して中等教育の課題に取り組み、解決策を提案できる	教養科目(○)	教養科目(○)						
	中等社会系教育に関する研究を計画し、推進し、教科教育の意義や目的・方法を説明できる								卒業論文(◎)
	社会系内容領域に関する研究を計画し、推進し、人文・社会現象の因果や意味を説明できる								卒業論文(◎)
	中等社会系教育に関する目標を構想し、実践を計画・実行し、その効果を評価できる								卒業論文(◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

社会認識教育学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
桐原 隆弘	教授	7071	C棟 517	kirihara@
草原 和博	教授	6800	A棟 404	kusahara@
熊原 康博	教授	7069	C棟 515	kumakuma@
徳永 佳晃	助教	6804	A棟 408	未定
池尻 良平	准教授	6798	A棟 402	rikejiri@
川口 広美	准教授	6799	A棟 403	hkawaguchi@
金 鍾成	准教授	6801	A棟 405	jongsung@
畑 浩人	講師	6802	A棟 406	hato@
森田 英樹	講師	7072	C棟 518	himorita@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））

識教育学」科目と、地理認識内容学、歴史認識内容学、市民性内容学、社会科学認識内容学からなる「社会認識内容学」科目のほか、選択科目で構成されています。

各科目領域は、基礎入門から理論研究、実習演習へと配しており、各領域を順次履修することで、各知識・理解、能力・技能の水準を徐々に上げ、中等社会系教員として必要な諸能力を無理なく修得できるように構造化されています。

各年次の履修基準は、1年次では教養教育科目の14単位以上、2年次では教養教育科目累計28単位以上、専門科目累計28単位以上、3年次では専門科目累計56単位以上を各々修得していることです。

卒業論文は、本プログラムがめざす中等社会系教員養成の最終到達点です。手順としては、3年次に開催されるゼミ分け説明会に参加した上で、指定された期日までに卒業論文指導教員の希望調書を提出します。3年次第3・4ターム以降、論文執筆に必要な内容を含む授業科目のほか、主要な研究領域の授業科目を重点的に選択履修します。4年次第1・2タームには、各領域の卒業研究演習で適切な指導を受け、第3・4タームには本格的に卒業論文の作成・執筆に入ります。4年次1月末に卒業論文を提出し、2月にプログラムの教員及び学生・大学院生に向けて発表する卒業論文発表会に臨みます。

上記のように編成した教育課程では、講義、実技、演習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育なども活用した教育、学習を実践します。

学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関連科目を併せて修得すると、中学校教諭一種免許（社会）と高等学校教諭一種免許（地理歴史）あるいは（公民）を取得できます。

また、特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、学校図書館司書教諭などの資格も取得可能です。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」, 「優秀(Very Good)」, 「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文 (卒業研究) (位置づけ, 配属方法, 時期等)

<目的>

卒業論文は、当プログラムがめざす中等社会系教員養成の最終到達点です。それまでに身に付けた中等社会系教員として必要な能力、技能、態度の基礎と発展を活用して、実際の教育・研究場面で使用し、自らの達成水準を見極め、さらに、それらを発展・向上させながら探究を深めるように促すことを目的にしています。

<配属の時期と方法>

3年次前期(例年5月)にゼミ分けの説明会を実施します。学生は、指定された期日までに研究テーマとゼミの配属希望を提出します。各学生には、3年次前期末までプログラム担当教員会で決定された指導教員が通知されます。実質、3年次後期より、いわゆる「ゼミ」での研究指導が始まります。

<卒業研究の展開>

4年次前期には、正式に、社会認識教育学、地理認識内容学、法認識内容学、経済認識内容学、倫理認識内容学のなかから1つの研究領域を選択し、卒業研究科目の受講登録を行います。指導教員の指導のもと、各自が選択する研究テーマに即して学修活動を進め、4年次10月の所定期日までに研究テーマを登録し、翌年1月末までに卒業論文を提出します。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

当プログラムは、主として教育学部の社会認識教育学プログラムを担当するスタッフによって遂行されます。遂行上の責任は、プログラム責任者(社会認識教育学プログラム主任)にあります。計画・実施・評価検討・対処改善も、当プログラム教員会によって行われます。なお、プログラム外部からの評価検討と対処改善は、教育学部・研究科内の研究教育評価担当部会において行われ、プログラム全体の到達度の評価と改善に向けた勧告が出されます。

(2) プログラムの評価

<プログラム評価の観点>

当プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点とします。

- ・教育的効果では、プログラムの実施による学生の学修成果を測定し、目標達成度を判定する。
- ・社会的効果では、プログラムの学修結果の社会的有効性を測定し、目標達成度を判定する。

< 評価の実施方法 >

当プログラムでは、上記2つの評価の観点にしたがって、原則として学生が入学して4年を経た年次において、プログラム自体の成果を評価します

・教育的効果は、当プログラムを修得した学生の到達率（卒業要件の充足と中等社会系教員資格の充足）、ならびに教員グループによる総合的な判断にもとづいて評価される。本評価では、単位充足率とともに、教員の総合的な判断にもとづいて、各学生が当プログラムの到達水準に達したかどうか、また学生全体でどの程度達しているかを調べたうえで、75%以上の達成率があれば、一定の効果が認められたと見なす。

・社会的効果は、学生の教員採用選考試験の合格率、ならびに採用後の社会系教員としての成長度にもとづいて評価される。本評価では、採用試験の合格率とともに、学生が、いつ・どの時点で正教員になったか、学校と教育委員会からどのような評価を受けているか、などを定期的に調べたうえで、教員としての成長度を総合的に評価する。

< 学生へのフィードバック >

プログラムの評価結果は、プログラム担当教員会にフィードバックされ、内容の見直しと改善に活かされます。また、学生指導や各授業科目の効果を詳細に検討したうえで、それらの結果を将来及び下級年次のプログラム運営と改善に反映させます。